

① 夕日  
② 生まれ  
③ 人口

「夕陽」も可

④ たいした  
⑤ かみて

② ① ウ  
② ア

③ せんたく  
④ シャボン

⑤ ウ  
⑥ イ

③ ① (の)が  
② に  
③ て  
④ (や)と  
⑤ の  
⑥ (ん)ぬ

④ ① か  
② っ  
③ こ  
④ い  
⑤ い  
⑥ ② イ

③ み  
④ っ  
⑤ と  
⑥ も  
⑦ な  
⑧ い  
⑨ ④ イ

⑤ が  
⑥ ① 気  
② が  
③ よ  
④ わ

配点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

①の「夕」は細い月の形から生まれた字である。②の「生」は「セイ・シヨウ・イ(きる)・ウ(まれる)・オ(う)・キ・なま・は(える)」と読む。③「人口」はある国や地域に住む人の数。「人工(じんこう)」(人の力で作り出すこと)と区別すること。④の「大」は「ダイ・タイ・おお」と読む。「大した」はたいそうな、おどろくほどのという意味のことば。⑤「上手」は「うわて・かみて・じょうず」と読む。それぞれの意味を調べておこう。

②

1 「なにげない」は、なんとという意図もなくふるまうようす。ここでは、当たり前のようにといった意味で使われている。  
 2 「いつごろからあった」のかというの、いつごろできたのか、いちばん古いものはいつごろのものかということである。この文章の中でいちばん古いのは「五〇〇年ほど前」である。「四〇〇年ほど前」は「さいしよ」に「日本」にきたときである。「一八七三年」は「日本」に「はじめてせつけん工場」ができたときである。

3 「せつけん」で「布などをあらう」のだから「せんたく」である。現代の洗濯用洗剤のほとんどが液体や粉状のものだが、昔は洗濯せつけんを使っていた。洗濯せつけんは今でも使用されている。

4 「シャボン玉」はせつけん水を管の先につけ、吹いてふくらませて、飛ばす泡の玉である。

5 四〇〇年ほど前に外国から日本にせつけんがやってきた ↓ しかし ↓ とても高価で、せつけんとしては使われていなかった。

あとの内容は、江戸時代にはせつけんは高価で、下剤のくすりだったということである。前の内容を、その段落全体ととらえると「しかし」があてはまる。むずかしいようであるが、日ごろから本をたくさん読んでいけば、すんなりと理解することができただろう。

6 江戸時代には「とても高価」で「くすり」あつかいだった「せつけん」が「せつけん工場」ができたおかげで「ふつう」になったのである。変化したのだから「高価」なものが安くなったと考えられる。また「工場」でつくるということは「たくさん」できるようになったはずだと考えてほしい。

③

ことばをつないだり、ことばのあとについたりするひらがなのことばの問題である。日ごろから意識して使うようにしよう。もちろん文法的な知識はまだ必要ない。正しく使い分けられることができればよい。また、例文がすべて、有名な物語の一場面を説明していることに気がついただろうか。

① だれが「落とした」のかと考える。「は」ではあとのつながりがおかしい。

② 「わたし」「に」「ください」ということである。「も」は前にほかの人にあげたことを意味している。

③ 方法や手段をしめす「て」である。

④ 「したところ、くになった」という関係をしめしている。「や」を入れると、「くするとすぐに」という意味になる。

⑤ 「が」ではあとのつながりがおかしい。

⑥ 打ち消しの「ぬ」である。打ち消すことばには「ない」以外に「ぬ・ず・ね・ざる・ざり」などがある。

④

1 何が「ずるい」といっているのか、「ひとりだけ」「なまえ」がどうなのか、と考えればよい。省略されていることばをおぎなう問題である。

2 「もごもご」は、よく口をあけずに物をかんだり、話したりするようす。「もくもく」は、けむりや雲が続けてわき起こるようす。「もりもり」は、ものごとを勢いよくおし進めるようす。

3 「かっこわるい」ではない。「文章中から」の「ぬき出し」でないといけない。「マフラー」にとっては「じぶん」は「みっともない」存在で、「てぶくろのふたご」は「かっこいい」のであった。

4 「風」にもなびかず、ひとりぼっちでも「まるでへいきで、いつもしっかりしている」「てぶくろのふたご」が、「なまえのことなんか、気にすること」が意外で、信じがたいのである。

5 「あこがれる」は、自分もそうなりたい、近くにいたいと思うことである。「マフラー」は、「気のよわい」「じぶん」は「なさげなく、みっともない」者であり、「いつもしっかり」している「てぶくろのふたご」は「かっこいい」と思っている。

6 「マフラー」は、気のよわいせいかくで「ふたごの前だと」「ふだんよりよけいに、気がよわくなってしまふ」とあった。大きな声で堂々と話すことができないのである。